

# 平成30年度 自己評価報告書

評価対象期間 自：平成30年4月1日

至：平成31年3月31日

評価基準日 平成31年4月1日

学校法人栗岡学園  
阪奈中央リハビリテーション専門学校

### 評価項目の達成および取組状況

- 1 教育
- 2 施設・設備
- 3 学生サービス
- 4 教育面などでの特筆すべき取り組み

回答責任者：作業療法学科 学科長、理学療法学科 学科長代行、事務次長

# 教育分野 (以下に点検・評価する教育分野の番号を○で囲んでください。)

①リハビリ

2 看護

## 1 教 育

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策
1. カリキュラムは貴校の教育目標をどのように反映していますか	概ね反映できており、信頼される理学療法士・作業療法士を目指し、知識、技術のみならず社会性も高めるように臨床現場に近い環境で指導にあたっている。	・2020年度の指定規則改定に向け、現時点から取り入れられる要素は積極的にカリキュラムに組み込んでいる。さらに臨床力を向上させる内容を充実させる必要がある。	5 + 分 4 3 2 1 ふ つ う 不 十 分	・新指定規則を満たし、臨床力を向上させるため、専門科目の単位数や講義時間数、実習時間等、科目の再編、内容を見直す必要がある。 ・卒業要件を見直し、国家試験合格率向上を目指す。
2. カリキュラムに卒後の職場のニーズをどのように反映していますか	時代の変遷に即し、がんのリハや予防リハなどの講義を特別講義として取り入れている。また知識・技術だけでなく、対人スキルを養うことにも重点を置き、バランスのとれた人材育成を図っている。	知識、技術、態度のバランスのとれた人材を輩出し、現場からも高評価をいただいている。卒業生が就職した施設からの求人リピート率も高い。 一方で職域はさらに拡大しており、現行のカリキュラムでは十分とは言えなくなってきた。	5 + 分 4 3 2 1 ふ つ う 不 十 分	今後も信頼される理学療法士・作業療法士の育成を目標とし、職域の拡大や時代の変化に対応したカリキュラムに改定する予定である。また、実習についても訪問通所リハの実習時間の確保に向けて調整していく。
3. 授業科目の学年進行や時間配分は適切ですか	一部改善が必要であると考えている。特に2年次は最も履修科目が多く、また評価・治療の根幹となる科目も多いため、自宅学習時間が過負荷になる傾向がある。	基礎分野や臨床実習に関しては問題ないが、専門科目の時間配分に過不足がある。特に学生の負担増となる授業(理学療法評価演習など)は、形態を変更して対応する場合がある。	5 + 分 4 3 2 1 ふ つ う 不 十 分	専門科目で不足した内容については、特別講義などで補充していく。 指定規則改定に伴う新カリキュラムでは科目の配当年次、時間数など、配分の問題が出ないよう検討していく。
4. シラバス(授業要項)を作成していますか(内容は適切ですか)	作成している。 入学時に学生への配布、実習施設へは講義概要として配布している。	内容は適切であると思われるが、講師により内容の詳細度にばらつきがある。	5 + 分 4 3 2 1 ふ つ う 不 十 分	内容にばらつきが出ないよう、共通のフォーマットを作成し、コマごとに授業内容、講師名、成績評価の方法・基準・評価、教科書等、詳細に明記する書式に改定する予定である。
5. カリキュラムの見直し体制はどのようにしていますか	指定規則改定、コアカリキュラム、臨床実習ガイドラインなど最新の動向も捉え、定期的に各学科で協議している。	各種教育学会や研修会に出向き、最新情報を入手し、計画に反映するよう心掛けている。	5 + 分 4 3 2 1 ふ つ う 不 十 分	指定規則改定前からコアカリキュラム、臨床実習ガイドライン等の要求水準と本校のカリキュラムを対比し、いち早く国、協会の水準に近づけるため、活発に意見交換をしていく。

6. テキストや教材をどのような基準で採用していますか	国家試験の出題範囲を考慮し、原則、科目担当講師に一任している。内容に偏りがあると判断した場合はテキストの変更を依頼している。	教科書が指定されていない科目はプリントなどで講義しているが、コアカリキュラムに則った知識が最低限得られる教材が見直しが必要ではない。また、現状の学生レベルと合致しない場合は、適宜テキストの変更を提案していく。	5 + 分	4	3 ふ	2 つ	1 →	不 十 分	コアカリキュラムに則った知識が得られるような教科書や教材かを精査すると共に、学生の現状を講師に伝え、より適切なテキストの提案もしていく。
7. 目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか	原則シラバス等で到達目標が示され、各科目で求める能力を問う試験を実施している。	到達目標の設定は各講師に一任してきたが、科目判定会議、進級判定会議を定期的に行い、厳正な評価に努めている。今年度に理学療法養成課程のコアカリキュラムが明示されたため、これに対応する必要がある。	5 + 分	4	3 ふ	2 つ	1 →	不 十 分	コアカリキュラムで示されている学修目標を取り入れた目標に加筆、修正する。新たに求められる能力要素があった場合は、それも含めて成績評価ができるように修正する。
8. 学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか	授業アンケート結果から、ほとんどの講師が学生の理解度に沿って授業を展開している。	一部の科目では指導範囲を終えるため、やむを得ず学生の理解度よりも若干早い進行になっているようである。	5 + 分	4	3 ふ	2 つ	1 →	不 十 分	学生による授業アンケート結果を担当教員や講師に適宜フィードバックし、次年度に向けた講義内容の調整を行っていく。
9. 学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか	1年次よりグループ学習を積極的に取り入れ、担当教員が個々の学生への対応を行っている。	特別講義や補講、聴講制度を設けており、補講に関しては、内容や時間数に限りがあるが少しずつ成果に繋がっている、1年生には手厚い個別指導ができる体制が整っているが、他学年の学力不足を補う体制は十分とは言えない。	5 + 分	4	3 ふ	2 つ	1 →	不 十 分	理学療法学科では、次年度より専任教員を増員するため、教育力の量的不足は解消できると思われる。作業療法学科では、補講の内容をより充実させるため、準備検討中である。
10. マナー（喫煙指導などを含む）やしつけの教育や指導を行っていますか	全教員が適宜指導している。臨床でのマナー・身だしなみ等については普通の学校生活から適宜指導している。	1年次から社会人、医療人に求められる姿勢、態度についてきめ細かい指導を実施している。現場からも高く評価いただいているが、目の行き届かないところで、不適切な行動を行う学生も皆無ではない。また、まれに学生や保護者から指導に対して誤解を招くことがある。	5 + 分	4	3 ふ	2 つ	1 →	不 十 分	本校の教育方針の意図を学生、保護者に正しく理解いただけるよう綿密なコミュニケーションをとってゆくとともに、今後も教職員が手本を示し、職業人としてのマナーやルールについて教育していく。

11. 教育技術（教育方法）の研修・研究を実施していますか	各教員の希望により研修に参加している。今年度、研究発表は行われていない。	学生指導や授業準備などの業務に追われているため、研究活動への時間をかけることがなかなかできず、また研修の参加も計画的には行われているとは言えないが、研究活動や資格認定を受けている専任教員は増加している。	5 + 分	4 ←	3 ふ う	2 →	1 不 分	リハビリテーション医療の変化に対応した講義内容にするために計画的、積極的に学会や研修会に参加し、情報収集していく。また我々の教育効果を検証するためにも学会発表や研究活動を精力的に行い、教職員全体のスキルアップを行っていく。
12. 学生による授業評価を実施し教育改善に反映していますか	講義の終講時に授業アンケートを全科目に対して実施している。	評価結果は希望に応じ閲覧できるようにしている。一部の非常勤講師は自身の評価を把握できていない。	5 + 分	4 ←	3 ふ う	2 →	1 不 分	今後もアンケートは継続し、さらに、教員の能力開発の一環として、専任教員、非常勤講師ともにアンケート結果をフィードバックし、講義方法等を見直す機会を作っていく。

## 2 施設・設備

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価					今後の向上・改善策
1. 教室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	教室の数、付帯設備は十分であるが、講義棟の一部教室面積が若干狭い教室がある。	・講義棟、実習棟合わせて教室の数は十分であるが、HR 教室で単位認定試験を行うにはやや狭いため、別室で行う必要がある。 ・視聴覚設備は充実しており、授業進行はスムーズである。	5 + 分	4 ←	3 ふ う	2 →	1 不 分	単位認定試験の実施教室は、レクレーション室や大研修室を活用している。
2. 図書室を設け蔵書を適切に揃えていますか（有効に活用されていますか）	・蔵書数は基準を満たしている。現在、図書室は隣の四条寮看護と共同で利用している。 ・メディカルオンラインの導入により、実習中の文献検索が容易になった。	図書室が実習棟横の看護学校内にあることからアクセスしづらい状況にあることから、利用率も伸び悩んでいる。	5 + 分	4 ←	3 ふ う	2 →	1 不 分	次年度には図書室を講義棟の3階に移転する予定である。
3. 実習・実験室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	実習教室については十分な数と広さがある。一部の検査機器、研究機器については動作不良を認めるものもある。	指定規則改定によって新たに必要となる備品までは揃っていない。一部の検査機器、研究機器は経年劣化により動作不良を認めている。 一方で、講義棟では視聴覚教材の使用が容易になった。	5 + 分	4 ←	3 ふ う	2 →	1 不 分	指定規則改定に向け、新規購入の必要な機材、修理が必要な機器を一斉確認し、購入に向けて準備を進めている。

4. 最新機能を備えた視聴覚機器や情報機器は足りていますか（有効に活用していますか）	・各教室のプロジェクターやマイクについては利用しやすい環境である。 ・学内ほぼ全域をWi-Fi接続可能にしている。	・教育環境としては充実している。 ・パソコン教室のネット環境は未整備である。	5 + 分	4 ←	3 つ	2 →	1 +	不 +	パソコン教室もWi-Fi接続できるようにし、文献検索などが学内でできるように整備していきたい。
5. ニーズに応じた学生寮を保有していますか（有効に活用されていますか）	男子寮、女子寮を保有している。女子寮はキャンパス敷地内にある。	女子寮には寮母を配置し、また、男子寮・女子寮ともに入口はオートロック付きで、セキュリティ面で安心である。日本語科の留学生の増加に伴い、女子寮が満室に近い状況になってきた。	5 + 分	4 ←	3 つ	2 →	1 +	不 +	今年10月に女子寮を別に1棟増やす計画である。
6. 体育館や運動場などを保有していますか（有効に活用されていますか）	体育館、運動場ともに保有している。保健体育や卒業式などの式典で利用し停るほか、グループ内のクラブ活動などで使用している。	・地域にも開放している。関連病院と連携し、競技復帰前のスポーツ選手も活用している。	5 + 分	4 ←	3 つ	2 →	1 +	不 +	・体育館は学生が普段から利用しやすいように管理・運営方法を検討する。 ・次年度は学生交流や運動療法の学習の一環で運動場や体育館を利用する計画を立てている。

### 3 学生サービス

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価					今後の向上・改善策
1. クラス担任制をとり修学に問題のある学生に対して適切な対応を行っていますか	担任制をとっている。問題のあった学生については、毎朝のミーティングや会議にて全教員で対応を検討している。	各クラスの担任は2名体制の上、演習・臨床実習では、全専任教員指導体制により、個々のレベルに応じ、きめ細かい教育ができています。さらに随時面談を実施し、学科全体で学生の情報を共有している。	5 + 分	4 ←	3 つ	2 →	1 +	教員の指導力の較差がないよう努力し、学生個々のレベルに応じたきめ細かい教育を継続していきたい。
2. 学生に対してカウンセリング（心理相談）を行っていますか	関連施設に臨床心理士がいるので、学生面談で必要と思われた場合は利用を勧めたり、あるいは学生本人からの申し出により行っている。	臨床心理士と教員が連携し、担任だけでは対応しきれない問題のある学生については、臨床心理士に対応を委ねることもある。	5 + 分	4 ←	3 つ	2 →	1 +	現状では十分な環境が整っている。

<p>3. 教室以外に休憩スペースが適当に置かれていますか</p>	<p>大学生ホール、小学生ホールを2部屋、各所にソファが設置されており、休憩時間には学生が有効利用している。</p>	<p>講義棟の開設により学生用スペースはかなり充実している。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4</p> <p>← つ う</p> <p>3</p> <p>→ 十 分</p> <p>2</p> <p>1</p> <p>不 十 分</p>	<p>特に問題はない。</p>
<p>4. 食事場所や売店などのスペースが設けられていますか</p>	<p>食事場所は原則教室と学生ホールを開放している。 売店はないが、弁当の注文購入は毎日可能である。週に複数回はパン屋・ヤクルトが出張販売を行っている。</p>	<p>弁当の販売、パンの販売、自動販売機などで購入の選択肢を広げている。自動販売機の商品はカップ麺や菓子パンの他、お菓子などを販売している。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4</p> <p>← つ う</p> <p>3</p> <p>→ 十 分</p> <p>2</p> <p>1</p> <p>不 十 分</p>	<p>食事場所のスペースは十分である。自動販売機の商品の種類については随時検討しても良いと思われる。 徒歩5分内にコンビニもあるので、不自由ではない。</p>
<p>5. 学校独自に奨学金や特待生制度を行っていますか</p>	<p>学校独自の奨学金や特待生制度はないが、学生支援機構の奨学金を中心に案内している。 独自の支援制度としては、診療費補助制度や特別学費支援制度、家族割引制度がある。</p>	<p>日本語科に入学してくる留学生に対しては、学校独自の奨学金制度を導入予定である。 近年、他の一般病院から奨学金の案内をいただけるようになってきた。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4</p> <p>← つ う</p> <p>3</p> <p>→ 十 分</p> <p>2</p> <p>1</p> <p>不 十 分</p>	<p>学生支援機構や一般病院等の奨学金に加え、高等教育無償化の認可申請を検討していく。</p>
<p>6. その他 国家試験について</p>	<p>現役生の国家試験合格率にはまだまだ課題があるものの、既卒者の国家試験合格率は昨年度に比べ合格率は大幅に向上している。これは本校独自のフォローアップ制度により、既卒者は無料で学内施設や教員の指導を受けたことに起因すると思われる。</p>	<p>既卒者の受験者に対しては、専属で教員を配置し、綿密な計画のもとアクティブラーニング等も取り入れ、個々の学生の弱点克服に取り組んだ。</p>	<p>5 + 分</p> <p>4</p> <p>← つ う</p> <p>3</p> <p>→ 十 分</p> <p>2</p> <p>1</p> <p>不 十 分</p>	<p>数年にわたり国家試験対策を担当した教員の教育力、分析力が高まっており、これまでの経験を次年度の国家試験対策に活かしてゆく。</p>

## 4 教育面などでの特筆すべき取り組み(自由記入)

※学内においてこれまで記入したこと以外に、教育、施設・設備、学生サービス面での特筆すべき取り組みがあれば記入ください。

### ◇スポーツリハビリテーションの教育環境の整備

- ①夏休み期間中にスポーツリハビリテーションの特別実習を関連の阪奈中央病院で開催した。
- ②本校の教員厚地が主導で行っている高等学校運動部に対するメディカルサポート事業に学生も帯同し、学生のうちからスポーツリハビリテーションの現場に関わる機会を設けた。
- ③パーソナルトレーナーの国際ライセンスを発行する NSCA の認定校をめざし、教員 2 名が NSCA-CPT のライセンスを取得した。

### ◇脳卒中患者会との教育連携ならびに社会貢献活動

- ①奈良県の脳卒中患者会 2 団体の会員の方々に複数回にわたり模擬患者として協力いただき、学内でありながら現場と同等の環境で学習する機会を作ることができた。
- ②在宅でのリハビリテーションを勉強する患者会の会合に年間を通じ学生がボランティアで参加し、活動を支援するとともに医療者としての素地を養う機会となった。

### ◇ホースセラピーへの取り組み

- ①年度末の 3 月に、ホースセラピーの第一人者、東京農業大学の川嶋准教授のほか、ホースセラピーを実践されている理学療法士、作業療法士の先生方に特別講義を開催した。
- ②今後も年に数回、特別講義を開催してゆく予定である。

以上